

2021年 6月 1日

炭素繊維中間材料が次世代エンジン部品に採用

帝人株式会社の炭素繊維「テナックス」を使用した中間材料が、このたび、日機装株式会社が開発する、航空機向けの次世代エンジン用ナセル(*1)の部材として採用されました。

(*1)ナセル：航空機のエンジン、燃料や搭載機器を保持するために設けられる筐体のこと。

このナセルの部材は、エアバス社が進めている「Propulsion of Tomorrow」プロジェクトに採用が決まっており、2021年末までに試作品がエアバス社に納入される予定です。

このたびナセルの部材として採用された炭素繊維中間材料は、帝人が独自開発した航空機用の高性能速硬化エポキシ樹脂を使用したプリプレグで、一般的な航空機向けプリプレグよりも低温度で、且つ短時間に成形することができます。

また、航空機用途で広く使用されているオートクレーブ成形だけでなく、大量生産に適したプレス成形にも対応可能で、プレス成形した場合もオートクレーブ成形と同等の品質を実現します。

さらに、Automated Fiber Placement(*2)に対応していることが特徴となっており、速硬化エポキシ樹脂による短時間成形と、Automated Fiber Placementによる自動積層技術を組み合わせることにより、生産効率を最大限に高めることが可能です。

こうした生産性やコスト効率に優れる点が高く評価され、このたびの採用に至りました。

(*2)Automated Fiber Placement：一方向プリプレグを繊維方向に1/8~1/2インチ幅にスリットしたテープを、複数同時に自動積層する方法で、3次元曲線など複雑な形状でも成形することができる技術。

帝人はこのたびの採用を契機に、中期経営計画において「Strategic Focus（将来の収益源育成）」に位置づけている航空機向け炭素繊維中間材料の展開をさらに進めるとともに、持続可能な社会の実現に向けたソリューション提供を強化し、長期ビジョンである「未来の社会を支える会社」を目指していきます。

以 上

【 当件に関するお問合せ先 】

帝人株式会社 コーポレートコミュニケーション部 TEL: (03) 3506-4055